駅システムの現状と今後の動向

有村慎一*
大崎　満**
木村尚史**

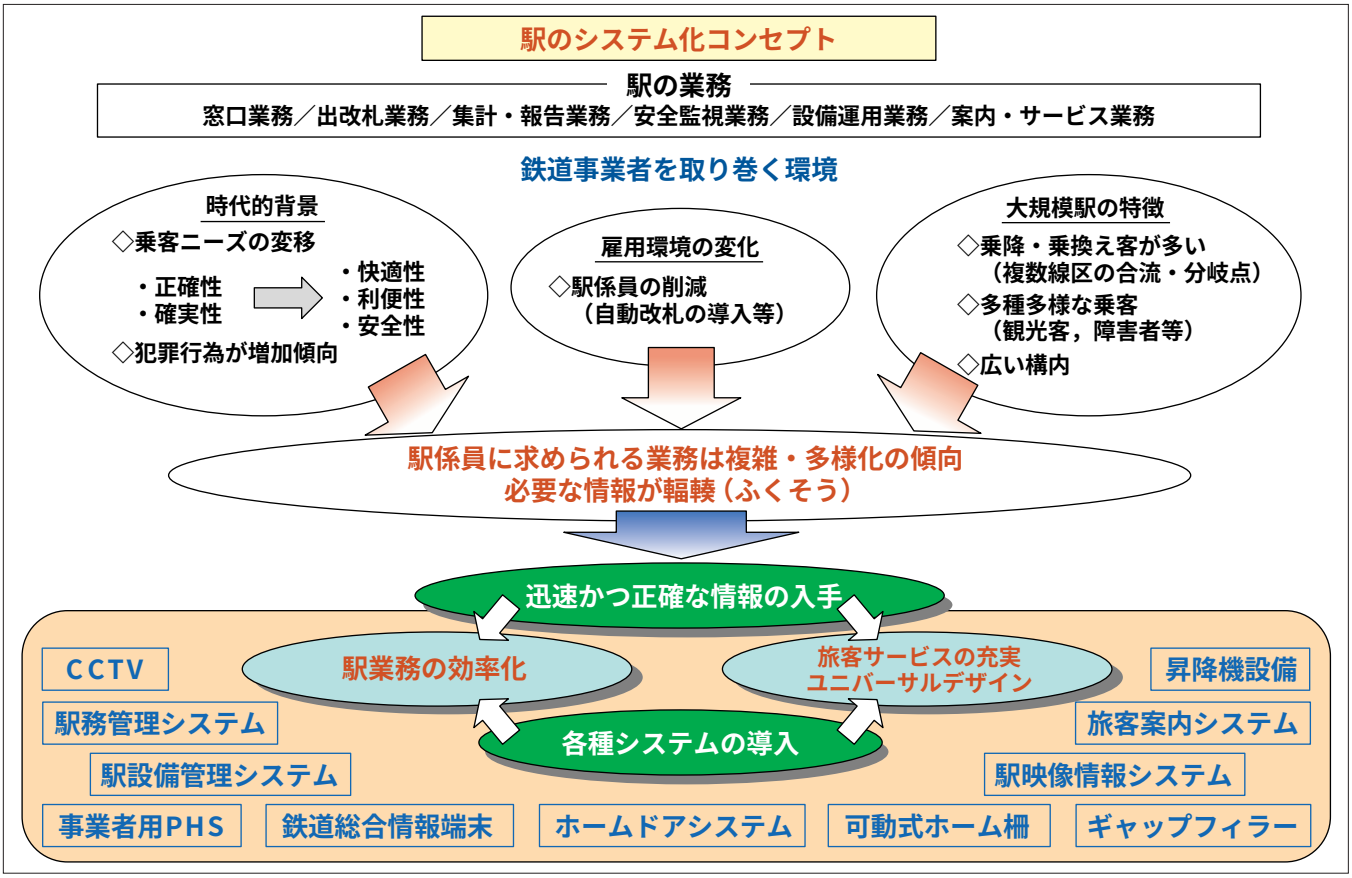
要　旨

鉄道における駅は旅客との第一の接点であり，駅係員の業務は多岐にわたるため，従来から様々なシステムが導入され，情報化による各種業務の効率化が図られている。出改札システムは，非接触ICカード乗車券の普及によって利便性が向上するに伴い情報が大容量化し，IP（Internet Protocol）ネットワークが導入され，駅システムもIP化が求められている。

最近では，交通バリアフリー法の施行に伴って，高齢者・身体障害者など移動制約者に対する移動の利便性や安全の確保が義務付けられ，エレベーター，エスカレーターやホーム柵の設置が進むとともに，乗客にとって利用しやすい駅の構築を目指して種々のシステムの開発が行われている。

本稿では，駅のシステム化に対する三菱電機の基本的な考え方を述べるとともに，システム事例として，駅係員の業務効率化を図るための駅務管理システムについて，技術動向を述べる。

また，ユニバーサルデザインの観点から，2003年３月に開業した上飯田連絡線に納入した可動式ホーム柵と，新しい駅旅客案内システムの開発について紹介する。



駅のシステム化コンセプト

時代的・社会的な背景から，駅係員に求められる業務は複雑・多様化の方向にある。駅業務を効率化しつつ旅客サービスを充実させるためには，IT（Information Technology）の応用を始め，様々なシステムを導入していく必要がある。さらに，これまでは通過するポイントであった駅を情報ステーションと位置付け，積極的に利用客へ情報提供サービスを行う“夢のある駅”作りを目指していく。

*社会ｅソリューション事業所　**交通システム事業所